ふじみ町
公民館報
No. 729
令和6年 5／1
発行　富士見町公民館
編集　公民館報編集委員会
TEL 0266(62)7900
FAX 0266(62)7611
〒399-0211
長野県諏訪郡富士見町富士見 3597-1
コミュニティ・プラザ内　富士見町公民館
ホームページ：https://www.town.fujimi.lg.jp/site/kouminkan/
Eメール：kouminkan@town.fujimi.lg.jp

コミ・プラ　マスコットキャラクター
『ホッホ君』

公民館
インスタグラム
FUJIMIMACHI_COMMUNITY_PLAZA

養狐場　入り口（『故郷　富里区のあゆみ』より）

養狐場の様子（『故郷　富里区のあゆみ』より）

昭和九年五月二十二日　南信日日新聞

産業欄

海抜三千餘尺 富士見高原は 理想的養狐地

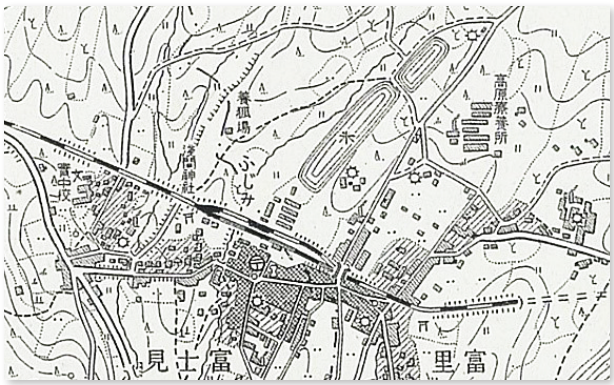
今夏の經過で打紙

山浦地方の春蚕と催青

生んだ子狐五匹

景氣の

新聞記事（南信日日新聞 昭和9年5月22日記事より）



昭和12年に測量の地図

その昔、富士見町に“養狐場”があった・・・

高原晴雨

毎朝、テレビのスイッチを入れ、NHKニュース「おはよう日本」を時計代わりにしている。真剣に見ているわけではないが、気になる話題があると、つい注目してしまう。「シニア人材活用で広がる『孫休暇』」というテロップに惹かれ、思わず見入ってしまったことがある。

育休を取得する男性が増えているが、まだまだ子育ては女性が担うことが多い。福島県郡山市では職員が祖父母の立場で育休を取る制度が始まったという。この「孫休暇」は、定年延長で働く祖父母世代が増える中、仕事と孫育ての両立につなげる狙いで、宮城県職員対象に2023年1月から初めて導入され、さらに他の自治体でも広がっているとのこと。誕生時のサポートや孫の育児・看病を理由に多くは有給で取得できるという。

この制度は民間でも広がりつつあり、柔軟な働きやすさのアピールとして導入している企業もあるということだった。今までは有給休暇を消化するように言われても、特にやりたいこともないという仕事人間だった男性が、週1回時間休を取って孫の習い事の送迎を引き受け、孫との交流を楽しんでいるという。さらに、上司が「孫休暇」を取ることで、若い親世代も育児のために休みを取りやすくなったという効果も出ているという。

このニュースから、以前読んだ、『定年オヤジ改造計画』（垣谷美雨・著）を思い出した。郷ひろみ主演でテレビドラマ化され、話題にもなった。会社人間として必死に勤め上げた定年後、のんびり過ごしていて妻や娘に冷たくされていた男性が、息子夫婦から孫二人の保育園のお迎えを頼まれたことをきっかけに、離婚回避と家族再生を目指す話である。子育ては妻に任せきりで古い常識に凝り固まっていた主人公が、孫の世話をすることで、様々な事に気づき、変わっていく姿をユーモラスに描いていた。

祖父母が孫の育児に関われる状況にない人もいるだろうし、祖父母と親との関係によっては難しいという事もあるかもしれない。身内任せだけでなく、社会全体で子どもの健やかな成長を支えるという制度の充実と共に、子どもを見守り、育てるという共通意識を大人みんなが強く持てるような世の中であってほしいと思う。

山口　美佐子

目次
P2～3【特集】謎の養狐場を追え！
P4　図書館・博物館コーナー

特集

謎の養狐場を追え！

今から約90年前の富士見町に、毛皮をとるための狐を育てる「養狐場」があったことをご存じですか？

町史や区史にも詳しい記述がなく、町内にもほとんど記憶する人のないこの養狐場について、古い新聞記事や富士見を訪れた文人たちの手記などをもとに、その歴史を探ってみました。

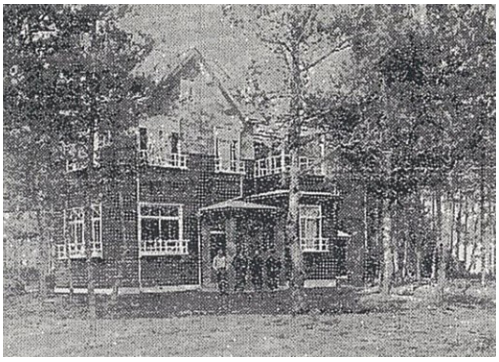
●なぜ狐を育てたの？

明治時代の日本では、国の経済力を高めて西洋諸国に対抗するため、「殖産興業」の名の下に新たな産業が次々興されました。

こうした中、海外の上流階級の装いに欠かせない存在であった毛皮は、簡便な外貨獲得の手段として当時の主要輸出品目の一つであり、また、国内の富裕層の「嗜好品」でもありました。その中でもキツネの毛皮の需要は高く、「吾国の婦人服飾毛皮として赤狐程広く用いられていて親しまれている毛皮は他にない」と言われるほどでした。

当初は野生動物の毛皮が利用されていましたが、その需要の増加と乱獲・開墾等による森林の減少によって個体数が減少。野生個体に毛皮資源を求めることが困難となったことから、二十世紀初頭にカナダで誕生した、養狐の技術を導入し、国営事業として養狐に取り組むようになりました。

日本の本格的な養狐事業は、カナダ東部に気候が似ていた樺太・千島で始まり、北海道へ、そして民営化とともに、しだいに本州の中部地方から東北地方にかけての寒冷地へと広がっていきました。



河西養狐場　居宅外観

信濃毎日新聞　昭和9年2月27日の記事より

●高原の養狐場

富士見町に養狐場ができたのは昭和8年12月のことでした。その名も「河西養狐場」。諏訪市衣之渡で事業を行っていた河西荘三氏が、軽井沢で二～三年来実験的飼育を行っていた養狐業に展望を見出し、新たな事業の場として目を付けたのが富士見高原でした。養狐場開業の二か月前、昭和8年10月の南信日日新聞の記事には、「富士見駅の北　一の澤地籍落合村瀬澤区の共有原野」約一万坪を借り入れ、事業を行う旨が記されています。

実はこの場所、現在の富士見中学校の敷地にあたり、昭和13年に発行された古い地図には「養狐場」の文字を見ることができます。

群馬県の北軽井沢から二つがいを購入し、飼育。予算二万余円をかけ、モダンな外国の洋館を思わせる居宅や飼育施設を新築し、スタートを切りました。開場当初は、温帯である諏訪地域の気候が飼育に適するのか、駅にほど近い場での飼育が可能なのか疑問視されていたようですが、世界恐慌の影響で相場が安定しない養蚕業にかわる事業として注目されていました。

そして開業から一年後の5月、南信日日新聞には「生んだ子狐五匹　富士見高原は理想的養狐地」の記事。二年目となる昭和10年5月の記事には「富士見高原の養狐　可愛らしい子が十三匹　苦心報いられて見事に成功」、12月には「富士見高原産銀狐　いよいよ帝都出荷の運び　樺太に優る優秀品」の記事が見られます。富士見高原の、夏でも乾燥した気候に加えて、飼料は馬・兎などの獣肉類、魚肉類、牛乳、鶏卵、ビスケット、果実類、オートミールを塩梅してあげるなど工夫を凝らし、飼育良好。手間はかかりますが育った狐の毛皮は非常に高値で売れ、結果、河西氏の養狐事業は大成功。

昭和12年には「信州高原に高まる養狐熱」「富士見の養狐　種狐分譲殺到」などの記事も見られ、河西養狐場が諏訪地域の毛皮産業をリードした様子がうかがえます。

●文化人たちの来訪

この養狐場、狐の子育てが落ち着く時期には見学者の受け入れも行い、富士見高原の観光施設の一つともなっていたようです。

ちょうどこの頃、日本初の高地結核療養所として開設された富士見高原療養所へ、院長で不如丘を号する文人でもあった正木俊二を頼って多くの文化人たちが療養に訪れ、彼らを見舞う関係者も多く来訪しました。

正木と同じく東京帝国大学医学部出身の医者であり、『ホトトギス』派の俳人として中央俳壇で活躍した水原秋櫻子は、昭和13年に友人の洋画家である曽宮一念を見舞った際にこの養狐場を訪れ、その様子を随筆に残しました。

―（前略）―径が落葉松の森に入ると、すぐ養狐場の垣があった。―（中略）―もう日が落ちかかっていて、そこらがいかにも冷やかな感じがする。しかしこれは狐を見るという気持ちが特にそうした感じをさそうのかもしれない。少年が鍵を外して扉をひらくと、広い四方形の運動場の二方を囲んで長い狐舎が建っていた。それが約四十五、六に区画され、そのひとつひ

とつに各一頭の狐が飼われているのであった。―（中略）―その狐舎の戸口にたいてい赤い札が貼りつけてあるので、何かときいてみると売約済みの札であった。ひと月ほど前に東京から毛皮商がやってきて、毛並みのいい奴を売約してゆくのだそうである。この四十数頭のほとんどすべてが、やがてこの養狐場で殺され、東京へ出て襟巻になるのだと思うと気の毒であった。―（後略）―

（水原秋櫻子　「養狐場」）

また、正木の友人の小説家、菊池寛が原作の映画、「新道」のロケ地としてもこの養狐場が登場しており、子狐が戯れる姿を見ることができます。

富士見を訪れた文化人たちの残した作品から、河西養狐場の、当時の姿の一端を知ることができます。

●生き証人に学ぶ

調査を行う中で、この養狐場を実際に訪れたことがあるという瀬沢新田生まれの93歳（令和6年3月時点）の女性お話を伺うことができました。「今はきつねのことを話せる人も少なくなって・・・」とおっしゃりながら教えていただいた内容の一部を以下に記します。

お里（実家）の畑の隣が養狐場だった。狐屋は畑の隣の小高い丘の上にあって、丘は木で周りを囲まれていた。自分が小学校の三～四年生頃のこと、学校が終わって畑に草取りに行くと、きつねのおばさんが丘の上から「いらっしゃーい、いらっしゃーい」と手を振って呼び、ピスケット（聞き取りママ）をくれた。当時はピスケットなんてなかったのでうれしく思ったことを覚えている。きつねのおばさんはきれいな人で、きれいな長いスカートをはいていた。一度だけおばさんが、「いまはあかちゃんが生まれるころだから静かにね、静かにね…」と言いながら中に入れてきつねを見せてくれた。きつねの運動場で太い尻尾のきつねがぴょーん、ぴょーんと飛んでいた。毛がふさふさしていて、きつねってきれいだなあと子供心に思った。狐屋は地形的に小高い林の中にあり、まわりは木の塀で囲われて中が見えないようになっていた。地元の人でも中に入れてもらった人はあまりいなかったと思う。きつねのおばさんはなぜか私を可愛がってくれて、畑に行ったときに何回も呼んでくれた。五つ上の姉は入れてもらわず、「いいなあ」と羨ましがられた。畑から狐屋に行く道は登り坂で、坂の右手にはタヌキの小屋が、左手には穴倉があった。穴倉にはきつねの餌の肉が入れてあるとおばさんが言っていた。タヌキは小さな小屋に二匹くらいずつ入れられて、こっちを見ていた。小屋の前を通るとツーンと特殊なにおいがした。タヌキはくさくて、あんまり好きではなかった。昭和16年、小学校五年生の時、大東亜戦争（太平洋戦争）がはじまった。狐屋はいつの間にかなくなった。昭和20年頃には父が材木屋をやっていて、八ヶ岳から切り出した木を駅の土場まで運ぶトロッコが、狐屋のあった丘の横を通っていた。

当時の貴重なお話を伺うことができました。

●養狐場の終焉

いただいたお話の中に「狐屋はいつの間にかなくなった」とありましたが、養狐場がいつ、どのように無くなったのか現状ではよくわかっていません。

調べた限りで最後にその存在を伺うことのできる資料は、昭和15年12月24日の信濃毎日新聞の新聞記事で、タイトルは「毛皮景気も夢　贅沢は敵だ！以来の受難　寒風冷し　諏訪の養狐場」というものです。中には、一枚数百円～数千円（一円＝現在の二千円程度か？）で飛ぶように売れ、一時はあの毛皮を巻かねば女でないとまで一世を風靡したのも今は昔、昭和15年7月7日に施行された「奢侈品等製造販売制限規制（軍需生産の拡大に直接貢献しない高級織物・貴金属・装飾品などの贅沢品の製造や販売をすべて禁じたもの）」のあおりを受けて市場が低迷していると書かれ、河西氏の「人間の食糧さえ事欠く時世に獣肉を常食とする銀狐の飼養は非常に困難になった」とのコメントも掲載されています。

新規事業として成功をおさめ、富士見の観光名所の一つとしても知られたこの養狐場も、戦争のあおりを受けて、閉場せざるを得なかったと推測されます。

その後養狐場の跡地には、昭和28年に、現在の富士見中学校の前身である組合立富士見高原中学校が開校します。この富士見高原中学校になるに至るまでにどのような経緯をたどったのか、今回は調べることができませんでしたが、作家・田宮虎彦が、昭和25年、妻の千代夫人と「狐の別荘」に滞在したという記述を見つけました。河西養狐場の洋館はしばらくの間、都会からの来訪者などの別荘として利用されていたのかもしれません。

おわりに

町内でも今はほとんど知る者のない謎の「養狐場」について、ごくわずかではありますが、その歴史を紐解くことができました。この記事を読んだ方で養狐場について更なる情報をお持ちの方がいらっしゃいましたら、教えていただけると嬉しいです。

（文責：井戸尻考古館　平澤　愛里）

※参考文献は文字数の都合で割愛させていただきます。

富士見町公民館からのお知らせ

公民館企画講座　セルフジェルネイルの世界

◆日　時：令和6年5月17日（金）午前10：30～13：00
◆会　場：コミュニティ・プラザ実習室
◆定　員：16名（15歳以上から参加可能です）
◆参加費：1,500円（材料費）
◆持ち物：①ブラシ（メイク用可）②ネイルライト（お持ちの方）
講座内で使用するヤスリ・ベース・トップ・保湿用オイルはお持ち帰りいただけます。

お申込みは
こちらから！

図書館 博物館 コーナー

☎62-7930（図書館・博物館）

新着図書 ★電話・webまたはカウンターでご予約ください

「こまどりたちが歌うなら」 小説

寺地　はるな 著

前職の職場環境に疲れ果て退職した茉子は、親戚が営む小さな製菓会社に転職する。
頼りない社長、訳ありベテランパート職員など個性的な面々と働き始めた茉子。コネの子と呼ばれながらも、サービス残業や女性スタッフによるお茶くみなど、会社の中の「見えないルール」が見過ごせず、声を上げていくが・・・。
働いて、生きていくことのかけがえのなさが胸に響く希望の物語。

おはなし会（火曜日）

午前11時～

5月　7日　休館日
14日　果物のおはなし
21日　休館日（蔵書点検）
28日　色のおはなし・誕生会

おはなし会（土曜日）「ふじみ子どもの本の会」ほか

午前11時～

5月　4日　おべんとうのおはなし
11日　お母さんのおはなし
18日　でんしゃのおはなし
25日　英語のおはなし会

図書館

■開館時間／通　常・・・午前9時30分～午後6時
　　火曜日・・・午前9時30分～午後7時
■URL https://www.town.fujimi.lg.jp/site/library1/

白抜き…休館日　★印…イベント実施日　□…20冊貸出

	日	月	火	水	木	金	土
5月				1	2	★3	4
	★5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	□18
	□19	20	21	22	23	24	25
	★26	27	28	29	30	31	
6月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	★11	12	13	14	□15
	□16	17	18	19	20	21	22
	★23	24	25	26	27	28	29
	30						

富士見町図書館HP

～富士見町図書館　休館日のお知らせ～

5月21日（火）～5月24日（金）
蔵書点検のため、上記期間が休館となります。
期間中は、貸出、資料検索など全ての図書館サービスが停止となります。なお、期間中の図書の返却は、コミュニティ・プラザ入口に設置していますブックポストへお願いいたします。
※蔵書点検期間中、高原のミュージアムは開館しています。

図書館 イベント

●5月26日（日）科学のとびら①
「タコを作って、揚げよう！」

日　時：午前10時00分～正午
会　場：コミュニティ・プラザ 2階　大会議室
対　象：親子15組（お子さまは１組２名まで）
申　込：電話（☎62-7930）にてお申込みください。
参加費：無料

ナチュラコ展　淡くやさしい色の響きへ

期間：4月27日（土）～6月9日（日）

富士見町在住のnaturako：名取桜子さんの作品を展示します。
描くことこそ　ライフワーク　もっと楽しく　もっと自分らしく　絵に　向き合い　響き合う
淡くやさしい色と　やわらかな癒しの時間を　あなたの心にお届けできたら　うれしいです　naturako

博物館

■場　　所　富士見町高原のミュージアム（コミ・プラ２階）
■開館時間　午前10時～午後５時（入館 午後４時30分まで）
■休 館 日　月曜日（月曜が祝日の場合は翌日）
■入館料　大人 300円、子ども150円
　　諏訪地域の小中学生は無料
⇨右の招待券を切り取ってお持ちください。
町内１家族まで無料にてご覧いただけます。

ナチュラコ展
招待券